

## 中・高校生の森林意識

菅原 聡・上原あかし  
信州大学農学部 森林環境研究室

### I 研究の目的

森林意識の国際比較についての研究<sup>1~4)</sup>や長野県民の森林意識についての研究<sup>5~13)</sup>においてアンケート調査の回答を解析していた当時、一般の人は森林に対して無関心であったこともあり、森林についての情報も多くなかったので、自分自身が感じるままに回答されていて、ある程度“ホンネ”を知ることができ、森林体験に基づいた森林意識をそれなりに把握することができた。

しかし、その後、森林や“みどり”に対する社会的関心が高まり、毎日のように、森林や“みどり”についての称讃が決まり文句で伝えられるようになった。すなわち、森林のいくつかの効用があげられ、それらが如何に人間にとって大切であるかが説かれるようになった。そして、そのような情報のなかにどっぷりと浸されているうちに、森林はそのようなものだと理解する人が増えてきたようである。

1986年度におこなった、みどり意識についての研究<sup>17,18,20)</sup>においての解析過程で、そのことを痛感させられた。現在、森林と日常的に深くつき合うことが少なくなってきており、また、森林を意識しなくても生きていける状況にあるだけに、現代社会で生活していると、森林を体験しないままに、自分自身の感覚から離れて、「情報」によって森林を意識するようになっているのであろう。そうであるから、最近では、森林意識のアンケート調査をおこなうと、「情報」によって得られた「たてまえ」が「正解」として回答されるようになっていく。

とくに、現在の中学生や高校生のように、テスト成績重視の教育を受けている者に対して、意識調査をおこなうと、与えられた課題には正解があると習慣づけられているので、正解を答えなければならないと考えるのは当然であろう。そして、自分の感じをそのまま回答することにためらいをもち、それよりもそれを求めた相手のねらいが何であるかを考え、それに対してもっとも適した回答を、自分の蓄積した知識から見出そうとする。すなわち、「ホンネ」を出さずに、いわゆる「たてまえ」としての回答をしてくれるのである。

「ホンネ」と呼ばれる感情の動きをとらえる目的でのアンケート調査で、「たてまえ」と呼ばれる理性的な判断が回答されることは、いずれの調査の場合でも生じることである。現在のように、森林についての情報が広く行きわたるようになると、ますます「たてまえ」が多く回答されるようになる。「ホンネ」を知ることの意味があり、「たてまえ」を知ることの意味がないという考えもあるが、「たてまえ」を知ること大切であると思う。すなわち、現代社会で何が「常識」として通用し、どのような論理が好まれるかを知ることができるからである。

現在の中学生や高校生が、森林について何をよしとすればカッコいいと考え、何をよしとすることをカッコわるいと考えているかを把えてみようと思い、中学生・高校生の森林意識を探ることを本研究の目的とした。

ところで、都市部での中学生や高校生であれば、「たてまえ」だけの回答になってしまうが、日常的に森林に接することのできる場所であれば、若干「ホンネ」も出てくるであろうと考えた。そして、このような地域に住む中学生や高校生が、将来の森林の維持・管理の担い手になっていくとも考えて、伊那市周辺の中学生と高校生とを対象とした。

本調査研究にあたっては、非常に多くの中学校・高等学校の先生方の御協力を得たが、とくに、長谷中学校の高谷篤巳校長・伊那中学校の登内孝教頭・伊那北高等学校の有賀優教諭・弥生ヶ丘高等学校の山本勉教諭・上伊那農業高等学校の六波羅悟教諭・箕輪工業高等学校の太田和利教諭には深甚なる御援助をいただいた。ここに記して謝意を表する次第である。

## II 研究の方法と調査の実施

### 1 アンケート調査

伊那市周辺の中・高校生の森林意識を探るための方法として、アンケート調査をとることにした。

#### (1) 調査票

アンケート調査項目の決定にあたっては、森林環境研究会でこれまでにおこなってきた調査研究と比較考察することを考えた。調査項目は研究会メンバーによって検討のうえ決定されたが、それは「調査の結果」の章で示すことにする。

#### (2) 調査対象校の選定

長野県上伊那地方に所在する長野県高等学校のうち、普通科の伊那北高等学校と弥生ヶ丘高等学校・実業科の上伊那農業高等学校と箕輪工業高等学校を、中学校のうちでは、市部の伊那市立伊那中学校と山村部の長谷村立長谷中学校を選定した。

#### (3) 調査の実施

表1 アンケート回答者数 単位：人

学 校 名	男	女	不 明	計
伊 那 北 高 等 学 校	63	30	3	96
弥 生 ヶ 丘 高 等 学 校	56	64	2	122
上 伊 那 農 業 高 等 学 校	60	34	2	96
箕 輪 工 業 高 等 学 校	101	4	0	105
小 計	280	132	7	419
伊 那 中 学 校	207	175	11	393
長 谷 中 学 校	49	46	1	96
小 計	256	221	12	489
合 計	536	353	19	908

1988年4月から研究課題の検討をおこない、9月になって調査票を作成し、印刷した。そして、10月から11月にかけて、各調査対象校の先生方の御協力を得て、アンケート調査を実施した。調査対象生徒のサンプリングについては、各調査対象校の先生方の判断に委ねた。そして、1989年1月になってから、アンケート調査結果のとりまとめをおこなった。

調査対象校ごとの有効回答数を示しておくのと表1のようである。

## 2 調査対象生徒の居住する地域の概況

調査対象の中学生は長谷村と伊那市に居住しており、高校生も伊那市を中心とする上伊那地方（2市4町4村）、すなわち、伊那市・駒ヶ根市・上伊那郡に居住している。森林意識に対しては、その居住地域の自然環境や社会環境がそれなりの影響を与えていると考えられるので、上伊那地方の概況を示しておこう。

上伊那地方の東側には赤石山脈が、西側には木曾山脈が連なり、3,000m級の諸峰が境界をなしている。そして、伊那谷と呼ばれる南北に開けた盆地の真中を天竜川が南流している。赤石山脈から三峰川など、木曾山脈から小沢川・小黒川・太田切川などが天竜川に流れ込んでいる。そして、天竜川右岸地域では複合扇状地が形成され、末端で標高差の大きい幾段かの段丘崖・段丘面がつくられて、「田切地形」となっている。

上伊那地方の中心は伊那市である。天竜川に平行してJR飯田線・中央自動車道・国道153号線が南北に走っているのも、東京や名古屋への便は比較的よい。長谷村は上伊那地方東端の赤石山脈の山麓に位置している。

上伊那地方の人口状況を概略的にみると、全体としては微増を示しているが、長谷村などでは減少が続いている。

表2 人口の推移

	長野県	伊那市	駒ヶ根市	上伊那郡	長谷村
昭和55年	2,083,934	56,086	31,179	87,579	2,697
昭和60年	2,136,927	59,010	32,396	90,605	2,592
昭和62年	2,149,644	59,512	32,702	91,105	2,543

資料：長野県勢要覧 昭和62年度版

上伊那地方はかつては長野県内でも有数の米作地帯であったが、岡谷・諏訪地域に近いことや、中央自動車道の開通などにより、近年、工業化が急速に進み、電子部品・コンピューター周辺機器・カメラ・顕微鏡など、技術集約型が増えており、わが国有数の工業地帯となっている。それだけに、農業でも変化がみられ、かつての米作・養蚕中心から果樹・花卉栽培へと重心が移っている。観光業はそれほど大きな役割を果たしておらず、駒ヶ岳ロープウェイの利用者が多いくらいで、信州の他の地方ほどではない。

産業別就業者比率をみると、長野県では第三次産業が45%、第二次産業が38%となっているが、伊那市では43%と43%、上伊那郡では32%と52%というように、上伊那地方では、第二次産業就業者比率の高いことが大きな特徴となっている。しかし、「ベティの法則」にしたがって、今後、経済の発展にともなって、第三次産業就業者比率が高まっていくものと思

表3 産業別就業者数(昭和60年10月1日)

	長野県	伊那市	駒ヶ根市	上伊那郡	長谷村
第一次産業	195,256	4,658	1,916	8,119	291
第二次産業	435,248	13,909	8,526	25,584	609
第三次産業	516,589	13,959	7,167	16,040	507
分類不能	602	20	2	7	—

資料：長野県勢要覧 昭和62年度版

表4 森林面積

	長野県	上伊那地方	伊那市	長谷村	
地域総面積(ha)	1,358,462	135,044	20,875	32,028	
森林面積(ha)	1,065,222	106,330	12,183	31,009	
森林率(%)		78	79	58	97

資料：長野県民有林の現況 昭和63年4月

われる。

上伊那地方では、森林は山地から河岸段丘までつながって分布しており、森林率は79%と  
きわめて高い。しかし、表4にみるように、伊那市では58%、長谷村では97%となっていて、  
市町村間でのバラツキが大きい。

上伊那地方の森林をみると、人工林としては、条件のよいところに、ヒノキ林・サワラ林  
やスギ林が造成されているが、それらはきわめて小面積的である。人工林の大半は、戦後の  
拡大造林期に標高2,000mあたりにまで植栽されたカラマツ林である。天然林としては、か  
つて飼料・肥料・燃料用として活用されていたクリーコナラ林が里山に残っているし、また、  
段丘崖や低山地帯には天然下種更新によるアカマツ林が多い。標高1,200m以上になるとミ  
ズナラ林が多く、標高2,000m以上にもなるとシラベーオオシラベ林・ダケカンバ林などが  
多くなる。そして、標高2,600mあたり以上からハイマツ林がみられるようになる。

そうであるから、上伊那地方の中学生・高校生は、森林、それも人工林だけでなく天然林  
によって取囲まれていると考えてよく、四季折々の森林との触れ合いも可能であると思われ  
る。

### III アンケート調査の集計結果

問1 あなたは森の中を散歩するのが好きですか、きらいですか。

	好 き		あまり好きでない		き ら い	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	260	53.2	206	42.1	23	4.7
高校生計	301	71.8	110	26.3	6	1.4
合計	561	61.8	316	34.8	29	3.2

問2 あなたは野草摘みや山菜採り、きのこ狩りに行ったことがありますか。

	よく行った		たまに行った		行ったことはない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	147	30.1	289	59.1	53	10.8
高校生計	124	29.6	249	59.4	46	11.0
合計	271	29.8	538	59.3	99	10.9

問3 あなたは木に登って遊んだことがありますか。

	よく登った		たまに登った		登ったことはない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	123	25.2	274	56.0	92	18.8
高校生計	153	36.5	220	52.5	46	11.0
合計	276	30.4	494	54.4	138	15.2

問4 あなたは山でカブトムシやクワガタを採ったことがありますか。

	よく採った		たまに採った		採ったことはない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	150	30.6	216	44.2	123	25.2
高校生計	207	49.4	146	34.8	66	15.8
合計	357	39.3	362	39.9	189	20.8

問5 あなたはクリやドングリなどの木の実を拾ったことがありますか。

	よく拾った		たまに拾った		拾ったことはない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	229	46.8	236	48.3	24	4.9
高校生計	205	48.9	195	46.5	19	4.6
合計	434	47.8	431	47.5	43	4.7

問6 あなたはカブトムシやクワガタなどの昆虫を店で買ったことがありますか。

	よく買った		たまに買った		買ったことはない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	8	1.6	77	15.8	404	82.6
高校生計	2	0.5	30	7.2	386	92.1
合計	10	1.1	107	11.8	790	87.0

問7 あなたにとって最も親しみのある木の名前を五つあげて下さい。  
(上位5種)

	1		2		3		4		5	
	ス	ギ	マ	ツ	サ	ク	ラ	モ	ミ	シラカバ
中学生計	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%
	303	62.0	286	58.5	260	53.2	141	28.8	131	26.8
高校生計	マ		ツ		サ		ク		ラ	
	ス	ギ	マ	ツ	サ	ク	ラ	モ	ミ	シラカバ
	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%
	275	65.6	185	44.2	184	43.9	111	26.5	106	25.3
合計	マ		ツ		ス		ギ		サ	
	ク	ラ	シラカバ	イチョウ	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%
	561	61.8	487	53.6	445	49.0	233	25.7	219	24.1

問8 そのうちでいちばん好きな木は何ですか。  
(上位5種)

	1		2		3		4		5	
	サ	ク	ラ	ス	ギ	シラカバ	マ	ツ	モ	ミ
中学生計	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%
	100	20.4	52	10.6	38	7.8	36	7.4	34	7.0
高校生計	サ		ク		ラ		マ		ツ	
	シラカバ	ヒノキ	イチョウ	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%	実数
	84	20.0	41	9.8	39	9.3	30	7.2	25	6.0
合計	サ		ク		ラ		シラカバ		マ	
	ツ	ス	ギ	ヒノキ	実数	比率%	実数	比率%	実数	比率%
	184	20.3	77	8.5	77	8.5	58	6.4	48	5.3

問9 あなたは、「農場や牧場や森が入りまじっている人手の加わった自然」と、「まったく人手の加わらない森林や荒地のありのままの自然」と、どちらが好ましいと思いますか。

	人手の加わった自然		ありのままの自然	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	173	35.4	313	64.0
高校生計	168	40.1	246	58.7
合計	341	37.6	559	61.6

問10 あなたは、「森や林，森林を美しく維持するためには人間の手を加えなければならない」という意見と、「森林を美しく維持するためには人間の手を加えるべきでない」という意見と，どちらが正しいと思いますか。

	人間の手を加えなければならない		人間の手を加えるべきでない	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	213	43.6	263	53.8
高校生計	180	43.0	230	54.9
合計	393	43.3	493	54.3

問11 あなたが森林でいちばん心ひかれるものを次のうちから一つだけ選んで下さい。

	四季の変化		水の流れ		木や土の香り		小鳥のさえずり		森のしずけさ		木々の成長	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	171	35.0	86	17.6	34	6.9	80	16.4	101	20.7	11	2.2
高校生計	133	31.7	61	14.6	39	9.3	53	12.7	119	28.4	8	1.9
合計	304	33.5	147	16.2	73	8.0	133	14.6	220	24.2	19	2.1

問12 森林といちばん関係が深いと思うものを次のうちから一つだけ選んで下さい。

	木材		水		神秘		小鳥		酸素		きのこ	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	100	20.5	68	13.9	82	16.8	76	15.5	108	22.1	49	10.0
高校生計	50	11.9	87	20.8	68	16.2	57	13.6	134	32.0	18	4.3
合計	150	16.5	155	17.1	150	16.5	133	14.6	242	26.7	67	7.4

問13 では，森林とあまり関係のないものはどれですか。次のうちから一つだけ選んで下さい。

	木材		水		神秘		小鳥		酸素		きのこ	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	114	23.3	52	10.6	158	32.3	29	5.9	62	12.7	60	12.3
高校生計	136	32.5	37	8.8	125	29.8	17	4.1	17	4.1	76	18.1
合計	250	27.5	89	9.8	283	31.2	46	5.1	79	8.7	136	15.0

問14 あなたは森林は大切なものだと思いますか。

	思　　う		思　わ　な　い	
	実　数	比　率(%)	実　数	比　率(%)
中　学　生　計	465	95.1	15	3.1
高　校　生　計	412	98.3	4	1.0
合　計	877	96.6	19	2.1

問15 あなたは森林はどのような意味で大切だとお考えですか。次のうちから一つだけ選んで下さい。

	木　材　の　生　産		生　活　環　境　の　保　全		自　然　の　保　全		自　然　の　中　で　の　レ ク　リ　エ　ー　シ　ョ　ン	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	9	1.9	229	49.3	164	35.3	56	12.0
高校生計	4	1.0	246	59.7	129	31.3	28	6.8
合　計	13	1.5	475	54.2	293	33.4	84	9.6

問16 あなたは森林の大切さについて主として何から知識を得ましたか。一つだけ選んで下さい。

	新聞、テレビ、学校で学んだ ラジオから		本で読んだ		身近な人から 聞いた		自分の 体験から			
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)		
中学生計	122	26.2	99	21.3	46	9.9	53	11.4	140	30.1
高校生計	134	32.5	100	24.3	52	12.6	34	8.3	86	20.9
合　計	256	29.2	199	22.7	98	11.2	87	9.9	226	25.8

問18 あなたは山に行って泊まる時、次のどのようなものに泊まりたいと思いますか。一つだけ選んで下さい。

	山　小　屋		テ　ン　ト		バンガロー		民　宿	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
中学生計	143	29.2	189	38.7	71	14.5	77	15.8
高校生計	153	36.5	168	40.1	47	11.2	45	10.8
合　計	296	32.6	357	39.3	118	13.0	122	13.4



問19 あなたは都市と山村のどちらで暮らしたいと思いますか。

	都 市		山 村	
	実 数	比 率(%)	実 数	比 率(%)
中 学 生 計	214	43.8	260	53.2
高 校 生 計	183	43.7	216	51.6
合 計	397	43.7	476	52.4

#### IV アンケート調査集計結果の分析

##### 1 森林散策

問1は森林散策についての質問である。森林散策を「好き」と回答した中学生はほぼ半数である。男女別にみると男子の方がやや多い。しかし、高校生になると「好き」という回答が全体の70%程度を占め、男女別では中学生とは逆に80%の女子生徒が「好き」と回答しており、男子生徒の70%弱を上まわっている。森林で散策している中・高校生をほとんど見かけないことから、森林散策が「好き」というのが「ホンネ」であるとは到底思えない。中学生より高校生の方が、そして、高校生では男子生徒より女子生徒の方が、「好き」という回答の多いことから、森林散策が「好き」という回答は、体験からのものというよりは、情報によって影響された結果であると判断してよさそうである。

##### 2 森林体験

問2から問5までは森林体験を問うものである。森林体験の大切さについては、最近になって大きく論じられるようになった。しかし、その割には、森林のなかで人影を見かけないことも確かである。森林体験の程度を知ることは難しく、これらの質問での回答から、上伊那地方の中・高校生の森林体験は豊かであると判断できるものではない。ただ、これらの回答結果をみて、多くの中・高校生が、森林体験が豊かであることが正解であるし、そのように回答することがカッコよいと考えていると推論される。このように森林体験に対して目が向けられていることは確かであり、今後、やり方さえうまくすれば、森林への関わりをもつ可能性は高いと判断できた。

##### 3. 親しまれている樹木

樹木には、森林に生育している樹木・街路樹などとして市街地に植栽されている樹木・庭や公園に植栽されている樹木・木材としてよく利用されている樹木などがある。問7や問8のように質問された時には、自分の置かれている状況から、それぞれの場面を思い出しながら回答されているようである。回答結果をみると、親しみのある木として、身近かにあるマツ・スギ・サクラが上位を占めており、周辺部の森林に多いカラマツ・ナラなどは少ない。一番好きな木になるとシラカバが上位を占めるのが目につく。それはとくに女子生徒によって多く回答されている。

森林の中で虫捕りをしたり、ドングリを拾ったりした体験が印象的であったならば、そのような森林の中に生育している樹種があげられてもよかったのであるが、それらがあまりあげられていないということは、中・高校生の森林体験を上まわる情報を得ている結果のように思われるし、女子生徒によってシラカバが多くあげられたことは、森林体験というよりも他の要因によってのように思われる。

#### 4 自然と人手

問9と問10は自然と人手についての質問である。まず、どのような自然が好ましいかについてみると、「ありのままの自然」という回答が、高校生で60%弱、中学生で64%となっており、「ありのままの自然」に対する好みが強い。男女別にみると、高校生では女子の方が、中学生では男子の方が、「ありのままの自然」を好んでいる。「みどり」意識調査において、20歳代の人が高齢者に比べて「ありのままの自然」を好む割合が高いことが知られたが、今回の調査結果によっても、10歳代の中・高校生において、その傾向が強いことが確かめられた。

次に、森林を美しく維持するためには人手を加えなければならぬかについてみると、中・高校生ともに半数以上が、「人間の手を加えるべきでない」と回答している。ただ、長谷中学校と上伊那農業高等学校との生徒においては、林業活動に接しているせいか、「人間の手を加えなければならぬ」という回答が過半数を占めていた。

一般に、中・高校生は、森林を「ありのままの自然」にしておき、「人間の手を加えるべきでない」ことが正解であると考えているようであり、林業の場として見るのが少ないようである。

#### 5 森林に対する心情

森林で一番心ひかれるものとして「四季の変化」・「森の静けさ」が、問11の回答結果では多くあげられている。それに対して、森林の中に入っただけでわかる「木や土の香り」や、毎年森林へ行かなければわからない「木々の成長」に心ひかれるという回答は少ない。

そして、問12で森林と関係深いものを問うと、高校生では「酸素」・「水」と回答され、中学生では「酸素」・「木材」と回答されており、環境としての森林に関する情報がかなり行き渡っていることが知られる。

次に、問13で森林と関係ないものを問うたところ、高校生では、「木材」・「神秘」に、中学生では「神秘」と「木材」とに回答が集中したことはショックであった。というのは、生産の場としての森林に関する情報が少ないこと、さらに、恐ろしいところとしての森林のイメージがほとんどないことが推察されたからである。

そのようななかで、森林の大切さを問14で問うと、森林は「大切であると思う」とほとんど全員が回答している。そこで、どのような意味で森林は大切かという問15に対しての回答では、中・高校生ともに「生活環境の保全」・「自然環境の保全」をあげており、「木材の生産」はまったくあげられていない。

これらのことから、上伊那地方の中・高校生は森林に対して関心をもつようになってきているが、森林の中に入っただけの森林に対する関心ではなく、森林の外からの森林に対しての

表5 問19の選択理由

	都 市	山 村
長谷中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山がたくさんあると危険なところがあるから。</li> <li>・都市の方が安全だと思う。</li> <li>・あそびやすい。</li> <li>・あこがれ。</li> <li>・山の中はいやだから。</li> <li>・山村は不便だし、さびしいから。</li> <li>・山村でくらしただことがあるから都市でもくらししてみたい。</li> <li>・病院が遠いとこまる。</li> <li>・にぎやかで明るい感じがする。</li> <li>・山村では、希望する職業につけない。</li> <li>・自分のやりたいことがいっぱいある所の方がいい。</li> <li>・生活に便利だから。</li> <li>・山の中で一生を終えるつもりはない。</li> <li>・都市は、いったことがないからいく。</li> <li>・農業とか土をいじったりしたくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水が美しいから。</li> <li>・都市はうるさくてねむれないし、水がまずい。</li> <li>・どんぐりが好きだから。</li> <li>・空気が悪いと、病気になりやすいから。</li> <li>・山村といっても、あんまり山奥はやだけど自然が多いのがいい。</li> <li>・空気がきれいで住みやすい。</li> <li>・しずかでよい。</li> <li>・木がある。自然がある。</li> <li>・なんとなく。</li> <li>・都市より山村の方が静かだから。</li> <li>・静かでゆったりしている。</li> <li>・山のある所にすんでいると、どうしてもきれいにビルが立ちならんでいる所にあこがれる。でも山村でのんびりくらしでもいい。</li> <li>・わからない。</li> </ul>
伊那北高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便利だから。</li> <li>・人のいる所で仕事がしたい。</li> <li>・山村は不便だから。</li> <li>・山村はいろいろな面で不便。かといって、山村にすみたくないわけでもない。</li> <li>・生活が便利であり、生活経験が豊かになる。</li> <li>・文化、情報の伝達がはやい。</li> <li>・日照権が心配されるが山村はやだ。</li> <li>・一長一短でどちらともいえない。自分の好きな職業上。</li> <li>・都市の方が物が多いから。</li> <li>・笑える。</li> <li>・人口密度が高いし地下高騰が予想されるが山村はさみしいからだめ。</li> <li>・今は都市だが、いつかは山村。</li> <li>・情報があふれている。</li> <li>・楽しいから。</li> <li>・山や森にはたまに行きたい。</li> <li>・今まで田舎でくらししてきたから、1回ぐらいは都市でくらししてみたい。</li> <li>・山はこわい。</li> <li>・森林とか自然とかに縁がない方が、楽しみとか良さがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不便だがおちついている。</li> <li>・自然が身近。</li> <li>・好きだから。</li> <li>・都市の生活は経験がなく判断がつかないので。</li> <li>・のんびりしているから。</li> <li>・山村の方が落ちつく。山菜などがすぐとりに行け、食べれる。</li> <li>・銀座の1坪より田舎の100坪。</li> <li>・静かでおちつく。</li> <li>・人の手を加えるべきだから(美しく守るために)。</li> <li>・人ゴミの中でゴタゴタした生活が嫌い。</li> <li>・それは森林があるから。空気がうまい。</li> <li>・都会は土地が高い。自然とのふれあいを深める。</li> <li>・自然の中で生活したい。</li> <li>・都市はやかましくて、くさくて、水がまずくて性に合わない。</li> <li>・生まれたところだから。</li> <li>・気楽で、山菜、きのこがとれるから。</li> <li>・静かで環境がいい。</li> </ul>

関心にすぎないことが知られた。このような森林に対する心情は、自分の実体験によるものではなく、情報によって与えられたものと考えてよいであろう。

## 6 居住地の選好

上伊那地方の中・高校生が、山村と都会とのどちらに住みたいと思っているかを問19で問うたところ、中・高校生ともに、ほぼ半数が山村で暮りたいと回答した。山村・都会にそれぞれ住みたい理由として長谷中学校と伊那北高等学校との生徒によってあげられたものをまとめておくと、表5のようである。

表5からも明らかなように、都会に住みたい理由として、主として、利便性と就業の容易性があげられているが、それとともに、都市生活に対する漠然としたあこがれも理由とされている。それに対して、山村に住みたい理由としては、自然環境のよさ・人間関係のよさ・のどかさなどがあげられており、それとともに、都市生活の忙しさを忌避する心も理由とされている。

すなわち、山村に住みたいとする生徒は、基本的に自然環境や人間性を重視した「アメニティ」を求めており、都会に住みたいとする生徒は、現代社会がつくり出している財やサービスの「多様性」を求めていると考えてよい。もちろん、これら両方とも大切である。それだけに、上伊那地方の中・高校生もそれらの間での選択を迫られているようである。

## V 結 論

上伊那地方の中・高校生に対して森林意識や森林体験など、森林に関するアンケート調査をおこなった結果と、今までにおこなってきた森林意識調査の結果とを比較することによって簡単な結論を示しておこう。

まず、森林が豊かに存在している上伊那地方に住む中・高校生が、わずかな森林体験しかもっておらず、とくに印象に残るような深い森林体験をしていないと判断できた。それは、いろいろな設問に対する回答結果から知られたが、とくに、問7と問8とで好ましい樹種を問うたとき、周辺の森林に多く存在しているカラマツやコナラがほとんどあげられておらず、やっとうシラカバがあげられたにすぎないことから推測できた。そして、シラカバにしても、森林に生育しているものではなくて、信州の自然としてのテレビの映像を想い浮かべてのようである。また、森林が外側からだけで眺められており、森林の中にはあまり入っていないことが問11～問13の回答結果からも推測できた。

上伊那地方に住む中・高校生は、都会に住む中・高校生よりも森林体験が多いと思われるが、それにもまして、森林に対する情報が多いので、その情報量は森林体験をかき消すほどの量になっているようである。かつては森林の中に入っただけの「森林体験」をベースとして、「具体的な知識」が貯えられ、それによって「森林意識」が形成されていたことが、「みどり」意識調査<sup>17,18)</sup>において、40歳代以上の回答結果から推測することができた。ところが、本調査によって、上伊那地方の中・高校生にあっては、「森林体験」がないままに「情報」が入り込み、それに基づいて「観念的な知識」が蓄積され、それによって「森林意識」が形成されているように思えた。すなわち、「森林の豊かな信州」に住む「森林を体験していな

い信州」の中・高校生になっているようである。「森林体験」や「具体的知識」に基づかない「森林意識」は移ろいやすく、安定したものではないので、森林に対する愛着も育つはずはない。今後、若い世代と森林との結びつきを強めていくためには、中・高校生に対して、森林体験に重点をおいた森林教育をおこなうことが必要であると思われる。

次に、上伊那地方の中・高校生の森林のイメージは「環境としての森林」中心になっていると判断できた。このようになったのは、最近の森林に関する情報としては、「環境としての森林」についてはプラスイメージで流されるが、「生産の場としての森林」については暗いイメージでしか流されていないことによるのであろう。それだけに“森林はありのままが好き、森林を保護するには人手を加えてはならない”し、“森林と関係深いものは水や酸素であり、神秘・木や土の香り、また、もっとも身近かなはずの木材供給は森林とはあまり関係ない”と考えている。それにしても、「森林」と「木材」とが結びついていないということには驚かされる。このようになったのは、現代の中・高校生が自然科学を中心とした森林に関する情報や環境としての森林に関する情報の影響を強く受けているからであると思われる。したがって、これからは「生産の場としての森林」に関する情報を明るいイメージで流していくことが必要になっていると考える。

### 参考・引用文献

- 1) 四手井綱英ほか：森林環境に対する住民意識の国際比較に関する研究 トヨタ財団助成研究報告書 1981
- 2) 菅原 聡：森林環境に対する住民意識の国際比較—伊那と Hannover・Göttingen— 信大農演習林報告 No.18 pp.1~23 1981
- 3) 四手井綱英ほか：自然観の国際比較に関する研究(I)~(VIII) 第93回日本林学会大会発表論文集 pp.59~74 1982
- 4) 菅原 聡・橋本久代：自然観の国際比較に関する研究(IX) 第94回日本林学会大会発表論文集 pp.97・98 1983
- 5) 菅原 聡ほか：森林環境に対する住民意識についての研究(I)~(III) 第32回日本林学会中部支部大会講演集 pp.29~38 1984
- 6) 菅原 聡：森林環境に対する住民意識 「環境科学」研究報告集 B231-R40-7
- 7) 林野庁：生活環境資源としての森林・木 第2部 生活環境としての森林の利用 pp.23~62 1985
- 8) 菅原 聡ほか：山村における森林環境に対する住民意識(I)~(IV) 第33回日本林学会中部支部大会講演集 pp.53~60 1985
- 9) 菅原 聡：森林環境に対する住民意識(I) 信大農紀要 22(1) pp.1~20 1985
- 10) 菅原 聡：森林環境に対する住民意識(II) 信大農演習林報告 22 pp.1~8 1985
- 11) 菅原 聡・竹内久代：森林環境に対する住民意識(III) 信大農紀要 22(2) pp.71~82 1985
- 12) 菅原 聡：山村住民の森林意識 「環境科学」研究報告集 B268-R40-9 1985
- 13) 菅原 聡ほか：森林環境に対する住民意識(IV)・(V) 第34回日本林学会中部支部大会講演集 pp.87~90 1986
- 14) 北村昌美ほか：森林環境に対するフィンランドの住民意識について(I)~(IV) 第97回日本林

学会大会発表論文集 pp.79~88 1986

- 16) 菅原 聡：フィンランドにおける森林環境に対する住民意識 信大農紀要23(1) pp.1~35  
1986
- 17) 菅原 聡・木下浩司：地域住民のみどり意識 第35回日本林学会中部支部大会論文集 pp.79  
・80 1987
- 18) 菅原 聡：地域住民の「みどり」意識—山村地域にある高遠町での事例—信大農演習林報告  
24 pp.143~166 1987
- 19) 菅原 聡：住民意識のなかの日本の森林(Ⅲ) 第98回日本林学会大会発表論文集 pp.73・74  
1987
- 20) 北村昌美ほか：都市住民及び農山村住民のみどりに対する意識調査 科学技術庁資源調査所  
1988

## Untersuchungen über den Bewußtsein der Jugend für Forstliche Umwelt

**Satoshi SUGAHARA und Akashi UEHARA**

Institut für Forstliche Umwelt, Landwirtschaftliche Fakultät,  
Universität zu Shinshu

### Zusammenfassung

Seitdem wir die vergleichende Untersuchung über Bewohnersbewußtsein für Wälder und forstliche Umwelt in Angriff nahmen, sind schon einige Jahre vorgangen. Mit dem Fortschritt der Untersuchung sind die Unterschiede des Bewohnersbewußtsein zwischen Jugend und Alte klar geworden. Seit kurzer Zeit legt die Jugend mehr Wert auf Natur-und Umweltschntz.

Auf diesem Hintergrund ist es das Ziel dieser Untersuchungen. die Bewußtsein und Erlebnisse der Jugend in Ina über die forstliche Umwelt zu erklären.

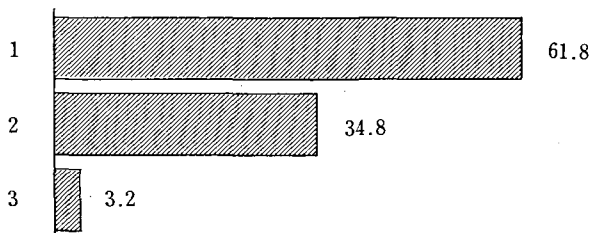
Die Proben wurden von Schüler in Hase und Ina Mittelschule, und Inakita und Yayoigaoka Gymnasium, und Kamiina und Minowa Technische Schule entnommen.

Über den Bewußtsein der Jugend für forstliche Umwelt erklärte es sich wie folgt :

#### 1. Wald in Alltagsleben

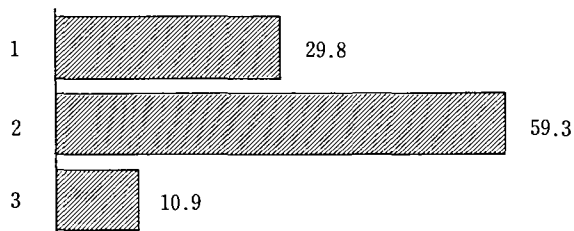
(1) Machen Sie gern einen Spaziergang im Wald?

1. Gern    2. Nicht so gern    3. Ungern



(2) Gehen Sie nach Wald oder Feld um Beeren oder Pilzen zu sammeln?

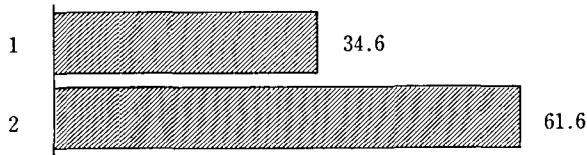
1. Ja    2. Selten    3. Nein



## 2. Eingriff der Menschen für Natur

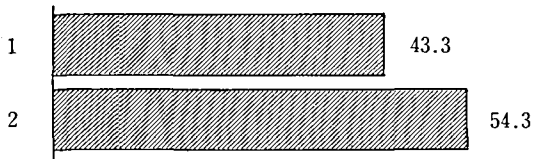
## (1) Was bevorzugen Sie?

1. Die beeinflusste Natur mit der freien Landschaft, den Äckern, Wiesen und Wäldern
2. Die unbeeinflusste Natur, die sich aus Urwäldern oder Ödländereien zusammensetzt



## (2) Ihre Meinung:

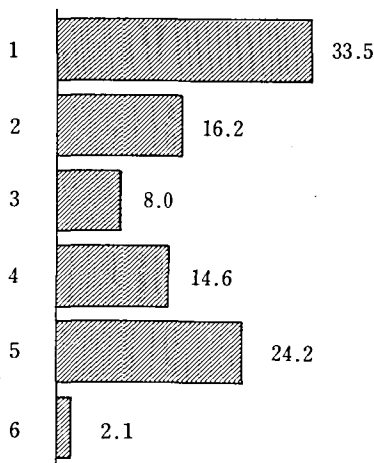
1. Wälder sollen von Menschen—zur Wahrung ihrer Schönheit— bewirtschaftet werden
2. sollen Wälder ohne menschlichen Eingriff belassen werden



## 3. Gefühl für Wälder

## (1) Welcher Erscheinung in Wäldern finden Sie anziehend?

1. vierteljährliche Abwechslung
2. Fließen
3. Geruch der Bäume oder Erde
4. Zwitschern
5. Stille
6. Wachsen der Bäume

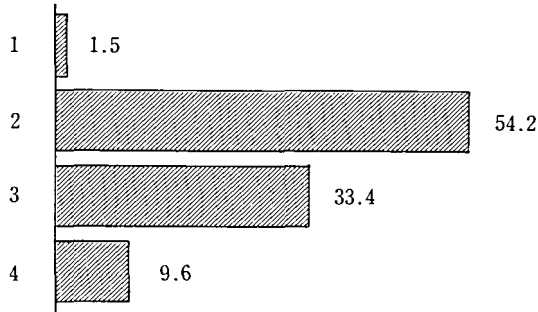




(2) Ihrer Meinung:

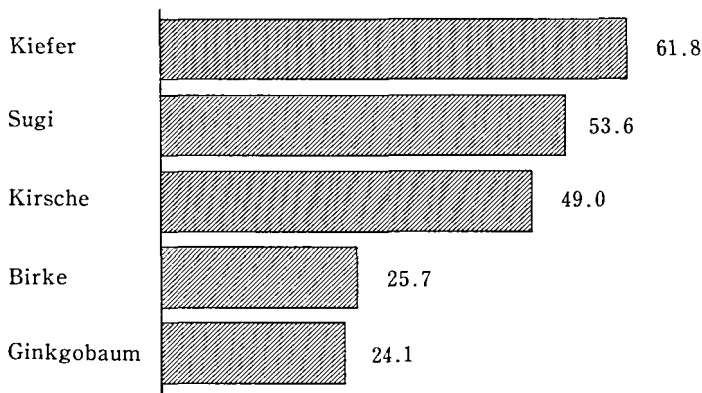
Welches Objekt nimmt an Wäldern am stärksten teil?

1. Holzproduktion    2. Umweltschutz  
3. Naturschutz        4. Erholung



4. Beliebte Wälder und Baumarten

(1) Zählen Sie bitte fünf Ihrer liebsten Baumarten auf.



(2) Welche Baumart davon bevorzugen Sie am meisten?

